

# 二年学年だより

No. 9

12月号

令和6年12月発行

207HR

## 気付き、学ぶことで世界を広げよう

先日、3年生に「ピロティーにベンチがあるのを知っていますか」と聞かれました。その生徒は、高校生活3年目にしてベンチの存在を知り、大変驚いたそうです。「校歌を書いた石碑はどこにありますか」「ハンドボールコート前の桜の下には何がありますか」毎年授業で質問しますが、ピンとこない人、全くわからない人もいます。このように、この狭い校内のことでさえ、気付かずに見逃していることが多いのです。でも、不思議なことに、存在に気付いた後はそれらを自然と意識しています。おもしろいですね。

「多くのことを知っている、見える世界が広がる」そう感じたことはありますか。知っているから気付くこと、気付いたから行動できることがあります。気付いてしまうと放っておけない。こんなことは、日常茶飯事です。けが等で不自由な思いをした人は、その困難さを知っているので、自然と相手を気遣います。自分が何かをするときに周囲の人に助けてもらった経験がある人は、他の誰かのためにも快く協力します。また、同じものを見ても、それに関する知識が豊富だと他の人とは違った視点を持つことができます。一方で、何も知らず、気付かずに鈍感に過ごすこともできます。しかし、多くのことを知り、気付くことで、相手を思いやることができたり、多角的に物事を考えたりできるって、素敵だと思いませんか。

今、皆さんは多くの教科・科目を勉強しています。毎日課題に追われ、部活動でクタクタになって、もしかするとそれが将来何の役に立つのか疑問に思う人もいるでしょう。でも、今まで生きてみて思うことは「無駄になった勉強や経験はない」ということです。今まで積み重ねてきた毎日が、今の自分をつくっています。今からの学びや経験が将来の私をつくれます。

皆さんも、自分の人生を豊かにするために、多くのことに興味を持ち、学んでください。そのためにはまず、目の前の授業や課題、やるべきことに精一杯取り組みましょう。将来の自分について大いに悩みましょう。その経験が、今からの自分をつくれます。

過去は変えられないけれど、今の自分を変えられる。今が変われば、将来の自分の可能性はグンと広がります。ファイト！！  
(2年7組 担任)

## 学校は、どんな場所か

『学校は負けに行く場所。』という本に、教員になってから出会いました。「学生時代にしっかり負けておけば、自分が関わるべきでない分野が分かってくる。世の成功者たちは、自分が関わるべきでない分野では勝負せず、自分の努力が報われやすい分野で勝負している。」とのこと。なるほど。

自分の得意分野であっても、上には上が存在して、負けるときは負けてしまいます。かといって、「じゃあ努力しても意味がない」となってしまうと、決して周囲の人から認められることはありません。多くの人は、「自分が得意とするなら、この分野だろう」という自信と不安の両方を抱えながら生きていると思います。高校時代の私にとっては、理系科目とスポーツと社交性がそれに該当しました。それを気付かせてくれたのは、友人(他者)でした。「お前はアレが得意だよな」と言って認めてくれた高校時代の友人に大変感謝していますし、卒業後20年以上経った今でも数名の友人たちとは連絡を取っています。「誰かの得意を認めてあげられる存在になって、楽しい学校生活を送ってくれたら嬉しい。」私が高校教員を志した理由の一つでもあります。

学校は、自分には何ができるのかを考えさせてくれる場所だと思っています。…まあ、これが全ての人に当てはまるとは思っていないですが、皆さんはどうですか？  
(2年7組 副担任)